

# 令和5年度 学校評価教職員自己評価

【評価の目安】AB評価が90%以上がA、80%以上がB、70%以上がC、未滿がDとしている

	番号	項目	AB評価	評価	所見	
組織的な取組	1	学校教育目標への共感	100	A	○助け合いながら組織的な取り組みができています ○分掌組織割り行政的ではなく、分掌や役割を超えて協力する雰囲気がある。 ・行事の反省や昨年度の資料が、サーバ内でどこにあるかわからないことがある ・職員会議が勤務時間内に終わるのは良いが、活発な意見交換がない	
	2	管理職や同僚の支援や協力を感じられる	100	A		
	3	生徒のために+同僚や学校全体のために という意識	100	A		
	4	「学校としての一体感」	75	C		
	5	分掌組織は合理的に編成	71	C		
	6	分掌ごとのデータの蓄積・整理、次年度への引継ぎ	71	C		
	7	分掌や役割を超えて協力する雰囲気	71	C		
	8	職員会議の効率的な運営	92	A		
	9	職員会議での活発な意見交換	54	D		
		<b>組織的な取組</b>	<b>81</b>	<b>B</b>		
学年学級経営	10	学年主任を中心とした学年での一体感	87	B	○日常生活・凡事徹底はよくできている。 ・掲示物を作成するときは子ども主体で行くと委員会や係が動くことができる。委員会単位でも掲示物を作成する。	
	11	学級委員や班長などリーダーの育成	90	A		
	12	日常の活動(凡事)の徹底	86	B		
	13	班活動、話し合い活動などを通じた人間関係づくり	81	B		
	14	整理整頓、掲示物の充実、潤いのある学習環境	78	C		
		<b>学年学級経営</b>	<b>81</b>	<b>B</b>		
教育課程	15	年間行事計画、月行事計画、時程等の十分な吟味	88	B	○年間行事計画、月行事計画、時程等は、十分に吟味されている。	
	16	企画会・職員会議等で共通理解した上での教育活動	87	B		
	17	年間指導計画・全体計画の進捗確認、軌道修正	87	B		
	18	授業時数の十分な確保	86	B		
	19	自習にしない努力	95	A		
			<b>教育課程</b>	<b>89</b>	<b>B</b>	
	20	わかりやすい授業の展開	73	C	○評価評定についての共通理解ができた。 ○ICTの活用機会・幅が増えた。 ・ICTの活用の個人間の差があることと、相互授業見学週間の活用(システム)について見直すことが必要である。 ・家庭学習ノートの配布時に、必要性や取り組み方を説明する必要がある。	
	21	県、全国学調等の結果を分析した授業改善	76	C		
	22	「めあて」と「まとめ」がつながる授業展開	81	B		
	23	授業に学び合いや個別最適化を意識した展開	81	B		
	24	相互授業見学強化週間などを利用した授業見学	55	D		
	25	教科部会による進捗の確認、連携	90	A		
	26	ICTや視聴覚機器を、授業等に積極的に導入	80	B		
27	学習評価は妥当性信頼性のあるもの	95	A			
		<b>学習指導</b>	<b>79</b>	<b>C</b>		
道徳・総合・特活	28	(道徳)「考え議論する道徳の時間」授業展開	95	A	○ローテーション道徳について、同じ授業をすることで、より投げかけや返しが工夫できるようになった。 ・人権教育について、年間指導計画に人権作文や標語、教科との関わりを盛り込んだものを整理する。 ・委員会、本部の定員数の見直しについて、今年度の担当を中心に規定や規約の確認をする。	
	29	(道徳)ローテーション道徳の目的の実現	64	D		
	30	(総合)全体計画や年間計画に基づいた実施	82	B		
	31	(総合)主体的な学び、深い探究などをねらった取組	73	C		
	32	(人権)各学年で計画性をもった学習	67	D		
	33	(人権)生徒の人権感覚育成	100	A		
	34	(進路)3年間を見すえた系統的学習の実施	90	A		
	35	(特活)自治的な気風の育成、活発な常時活動	86	B		
	36	(特活)適正適当な本部や専門委員会の組織体制	64	D		
	37	(特活)行事の個人や集団の成長への役割	100	A		
		<b>道徳・総合・特活</b>	<b>82</b>	<b>B</b>		
保健・安全	38	ケガや体調不良等の対応、保護者連絡が適切	100	A	○アレルギーや健康上配慮の必要な生徒に対する共通理解ができていた。 ・安全点検が確実に行われていなかったため、朝の職集での呼び掛けや、チェックシートの置き場などの共通認識を行う。	
	39	配慮の必要な生徒に対する共通理解	96	A		
	40	保健衛生に係る学習活動での養教と学年との連携	91	A		
	41	交通安全や安全指導の確実な実施	74	C		
	42	避難訓練の工夫、実践的な取組	91	A		
	43	月に1度の安全点検の確実な実施	35	D		
		<b>保健・安全</b>	<b>81</b>	<b>B</b>		

生徒指導・教育相談・生徒の実態	44	生徒指導上のルールや配慮生徒等についての共通理解	91	A	○生徒指導が起こった際に学年だけでなく管理職や生徒指導主任に共有し、共通認識をもって対応している。 ○教育相談やいじめアンケートが学年や相談部会等で共有され、有効活用されている。 ・学習支援室の使い方について、学校に登校することを目的とするのか、1人で学習することを目的とするのかによって、使い方が変わってくる。現在は前者の意味合いの方が強い。そうであるなら、名称を変え、生徒の居場所づくりを大切にしようではないか。 ・先手挨拶の意味や意義をもっと伝えていく。生徒会本部を中心に先手挨拶に関する活動をもっと増やす。 ・清掃について「無言」なのか「ほぼ無言」なのか、教員間でもう一度共通認識を図っていく必要がある。
	45	危機意識を持った問題行動を未然に防ぐ取組み	87	B	
	46	速やかな問題行動への対応、連絡報告	96	A	
	47	時代に合った適切な校則	74	C	
	48	学年や相談部会等での情報共有	91	A	
	49	相談室の適切な運用、職員室との連携、協力体制	83	B	
	50	学習支援室の効果的な活用	70	D	
	51	無断欠席、不登校等の確実な安否確認	100	A	
	52	(生徒)時間を意識した生活	91	A	
	53	(生徒)授業の号令	95	A	
	54	(生徒)元気のいい先手挨拶	39	D	
	55	(生徒)朝の活動での指示や連絡事項の徹底	95	A	
	56	(生徒)授業や学活での規律の徹底	91	A	
	57	(生徒)給食の45分着席・準備開始	70	D	
58	(生徒)給食に関するルール、楽しい給食の時間	95	A		
59	(生徒)清掃の「はじめの会」開始時刻の厳守	96	A		
60	(生徒)ほぼ無言清掃に対する意欲的な取組	78	C		
61	(生徒)決まりを守った生活	95	A		
62	(生徒)家庭学習への取組	36	D		
63	(生徒)真面目で素直な生徒	100	A		
	<b>生徒指導・教育相談・生徒の実態</b>	<b>84</b>	<b>B</b>		
服務規律	64	勤務時間中での職務専念	100	A	○生徒に真摯に向き合い、授業や生徒指導などに取り組んでいる。 ・出勤簿の捺印や提出物の期限を守れていない職員もいるため、提出期限のその先にまだ続きがあることを周知させる。
	65	体罰、暴言などの、不適切な指導の根絶	96	A	
	66	生徒保護者とのSNS、個人情報等禁止事項の遵守	96	A	
	67	社会人としてふさわしい接遇スキル	92	A	
	68	風通しの良い職場環境	92	A	
	69	提出物の期限遵守や文書管理の徹底	88	B	
	70	金銭管理・監査による会計事故防止	87	B	
	71	部費の会計報告の保護者への徹底	100	A	
	<b>服務規律</b>	<b>94</b>	<b>A</b>		
施設・設備	72	事務用品の整理	96	A	○実際に購入した備品や消耗品が授業や活動で使用され、準備室等で適切に保管されている。 ○事務室の文房具が番号をつけて仕切られていてわかりやすい。
	73	使用した会議室、空き教室、事務用品等の原状復帰	96	A	
	74	共用スペースの快適な使用	92	A	
	75	備品や消耗品の適正な管理	100	A	
	76	本校の施設・設備・備品の充実	92	A	
	<b>施設・設備</b>	<b>95</b>	<b>A</b>		
連携	77	教職員のPTA活動、SSVC、地域の活動への協力	63	D	○除草作業や地域のパトロール等は教員も参加できているが、PTAの活動を教員に周知しても良い。 ・小学校同士の連携を図り、中学校の指導の際にバランスがとれるようにする。
	78	保護者は、学校の教育活動に理解を示し協力的	96	A	
	79	校区の小学校との連携、一貫性のある教育	65	D	
		<b>連携</b>	<b>75</b>	<b>C</b>	
<b>合計</b>			<b>84</b>	<b>B</b>	